

新聞と高校生、マツシロ

実践校 第2年次 長野俊英高校 土屋 光男

1、本校のNIEの現状など

本校も授業に新聞を活用するのは盛んである。それは私が知っているだけでも国語、地歴・公民、理科、家庭、情報などかなりの教科に及ぶ。例えば地歴科では夏の戦争特集を参考資料にして学習プリントを作成、調べ学習をしている。また理科では原発・地震の問題を新聞記事より切り抜き自主教材にして考えさせている。社会福祉基礎も同様。

また生徒や職員による新聞投稿も活発である。

因に2009年度は現時点迄で都合20回余り掲載された。それを使ってさらに学習討論してもいる。

大本営予定松代地下壕の取り組みについては本校の郷土研究班が先鞭をつけ現在もずっと継続しているが、地域の忘れてはならない戦争遺跡を高校生が純真な心で調査研究し、かつそれを保存・公開していく営みに対して、地域世論のオピニオンリーダーとしての新聞が温かく何度も何度も(800回ほど)紹介してくれた結果、今では松代大本営即「俊英高校がやっている」と知れ渡り、さらに「早く史跡への指定を」との地域合意を形成しつつある。

2、NIEで高めたい力は

新聞は自分たち(高校生)と関係ない雲の上の存在で高尚な方が著しているものなのだという意識を変え、高校生の投稿でも真摯に取り組めば新聞は必ずそれを適切にとりあげてくれる身近な存在なのだとしめしめを持てるようにしたい。

さらには新聞の力に(又は新聞との協力に)よって地域や世界を変えることもできるのだ、という自信・実感を持たせたい。ただし自らはそれで増長するのではなく、ますます謙虚になるようにしつつ。

新聞の内容を鵜呑みにしてはいけない(間違ったり、或いは適切でない報道をする等の)ということ、先輩がずっと取り組んでいるマツシロの取り組みの報道の長年の切り抜きの中より、さらには現在での新聞社との関わりで、気づかせたい。

3、研究の内容

(1)新聞投稿へチャレンジ

昨年に引き続いての実践で、なんとか自分たちの力で新聞作成まで行おうとしたが、今年は夏にNIEの全国大会があり、そこで実践発表をすること。さらには私事だが、手術入院が予定(幸運なことに腫瘍は良性であったが、今度は左眼の黄斑円孔が判明して半月ほど入院手術)されていたので新聞作成計画は断念、色々思案し、新聞投稿を主に行うことにした。

たまたま”10代から”ということで地元紙が高校生などの投稿に便宜を図りつつあった。しかし少なくとも高校時代国語3以上の生徒は殆どおらず、字を書くこと、文を綴ることの苦

手な彼、彼女らに、「新聞投稿しないか」と呼びかけてもしらけきっていることは明らか。そこで前年切り抜きの中から先輩生徒の投稿文を配り、君たちにも十分チャンスはあると呼びかける。また自らが原稿用紙と封筒を用意し新聞社の住所を書き、かつ切手を貼って投函するところまでできる生徒はいても2～3人であろう。

そこで別紙のような投稿用紙を配り、そこへ書かせかつ若干は推敲させ集めて、何人分かを纏めてその都度私が郵送した。(中には自分で投函できた生徒も出たが)

幸い郷土班では提案するとほぼ全員が、そして地域史選択生徒では数度試みた内のほぼ1/3から半分が住所、氏名、年齢、電話番号まで記入し「チャレンジする」と提出した。

そこで封筒中に私の簡単な添え状も入れて投函。

結果として

月	日	テーマ	地域史か班か	学年男女	備考
5	1	子供の笑顔に囲まれた生活 夢	地域史選択	3年女子	
	2	松代大本営から日々平和発信	郷土研究班	3年男子	
	3	タケノコ 自分で採った喜び	地域史選択	3年男子	
	4	ソフトテニスしている時 一番生き生き	地域史選択	3年男子	
	5	アルバイト 大変さとうれしさ	地域史選択	3年女子	
	6	お金の大切さバイトで学ぶ	地域史選択	3年女子	
	8	不況でも希望は持ち続けたい	地域史選択	3年女子	
	9	高校最後の年 たくさん思い出を	地域史選択	3年女子	
	21	初めての出前講座 とても緊張	郷土研究班	1年男子	
6	1	初の出前講座 心が通じ合えた	郷土研究班	1年男子	
	6	松代からの平和発信 貢献したい	郷土研究班	2年男子	
	14	自分を見つめ直した出前講座	郷土研究班	1年男子	
	18	大勢の前で発表 成長した感じ	郷土研究班	2年男子	
9	4	鳩山さんを松代大本営地下壕に	郷土研究班	3年男子	2回目
11	16	韓国の人たちとの交流に満足	郷土研究班	3年男子	
12	3	郷土研の活動 観光に生かしたい	郷土研究班	3年男子	3回目
1	3	三つの頑張りたいこと	地域史選択	3年男子	
	5	活動が発展する年になれば	郷土研究班	2年男子	2回目

顧問・教員

5月29日 NIE取り組み 父母も参加して
 9月17日 特定健診からの卒業 意を新た
 1月26日 世界遺産めざし松代大本営調査
 他に学園関係者 1

率先垂範、まず教員がと四苦八苦、チャレンジした

(2)信じられないと喜ぶ生徒

4月半ばから連休の特別企画に合わせて地域史では約15人ほどが投稿、そして結果として

編集者の好意もあり8人が採用された。

連休明けの授業では大変だった。「先生、載っていた。信じられない」「親戚から電話が掛かってきて気が付いた」「新聞に自分の名前を見て別の同姓同名の人かと思った」などあちらからもこちらからも声が掛けられる。そして掲載が連休中だったのでストックできた投稿文を全員分印刷して読み合わせをする。

そして自分はどの人の文(意見)に一番注目したか書く その理由を述べる、との課題を出した。採用された者も投稿しなかった者も(作文は書かせるが投稿は無理強いはしない。なんとならば投稿しない自由は保障したいからだ)全員真剣に書いてくれた。

中には、「今回は投稿しなかったが次は投稿したい」との意見も数人あった。

その結果、正月特集に投稿して採用されたのが「三つの頑張りたいこと」(1月3日)である。

これを機に新聞購読を始めたとか、新聞の読む欄がテレビ欄だけではなくなったとの意見もあった。

一方郷土班は今年7人の加入があり、その生徒を中心に初めて案内(出前講座)を行った後でその体験などでチャレンジさせた。これまた嬉しいことに5人が採用された。

以後も10人余りが投稿し4人も採用されている。他の新聞にも何人が応募したが不採用。

本校教育の喫緊の課題の一つに入学してきた新入生に自己肯定感、自尊感情を如何に早く抱かせるかがあるが、「お前が載るなんて驚いた」と中学校の恩師に激賞された生徒は、出身中学を訪問し班の冊子やグッズ(生徒が考案し地下壕見学者に販売している)を3000円以上も買ってもらった。そして夏の日米学生会議(日米の大学生の交流組織。外務官僚を目指すメンバーが多い)を案内した後の交流では突然指名されたにもかかわらず生徒を代表して感想を発言できた。大したものだと目を見張った。

都合3回採用された副班長は、入学時の落ち着きのなさは陰を潜めていたが、さらに見事なリーダーに成長した。近くに住む母方の祖母は非常に喜び、孫の取り組むマツシロの活動に全面的に協力するようになった。

2回採用された2年の班員はいっそう自信を回復し、その立ち居振るまいも堂々としてきた。

また進路実現に向けて勉強にも拍車が掛かってきた。まさしく、新聞の力、大である。

(3)新聞は偏差値で見ない

現在新聞離れが急増しつつあると聞く。事実家で新聞を購読していない数はかなりである。従って例えば郷土研究班の活動のニュースが有り難いことに新聞とテレビと二つの媒体で紹介された場合、「新聞に出ていたね」と声を掛けられるよりも、「テレビで見たよ」の方が圧倒的に多い。しかし新聞は活字でほぼ未来永劫伝えられる。またそれを教材に使える……

私は生徒に「新聞に出ることは簡単だ。悪いことをすれば確実に出る。しかし良いことで出るのはかなり難しい。どうだい、自分の名前を新聞に出したくないか」と呼びかける。それに加えて「謝礼ももらえるよ」とも。

結果として多くの生徒が雲の上の存在だった”新聞”に採用、掲載された。

大変有り難いのは編集者が生徒の意を汲んで拙い文を直して下さることだ。本来ならば私がやらなければならないことで本当に申し訳なく有り難く思う。

現在のこの社会、なんといっても偏差値で生徒達は”分別”される。しかし新聞（新聞編集者）は”偏差値”だけでは高校生を見ない、とらえない。その生徒達がどのように社会への働きかけをしているか、或いはどのような疑問や決意を持っているかで、投稿での文の上手い下手だけでは取捨選択しないと、とても嬉しく思う。

思いがけず採用された3年女子。何事もまずチャレンジしなくてはと、次にはある大学の小論文コンクールに応募。なんと入選。その大学の招待で授賞式に母親と名古屋まで。

さらに環境保護の標語にも応募して最優秀賞に。喜んでいた。

終業式で改めて全校生徒の前で校長より表彰されたが、彼女の後ろ姿は「私、青春完全燃焼中」と輝いて見えたことだ。

4、今後の課題や事務局への要望

教育現場は本当に繁忙を極めます。よって体調を崩したり第一線から退く人も多い。

少なくとも膨大な提出書類などは極力簡略化しなければと思う。

2年間の実践を通じ私はNIEの精神・理念はすばらしいと思います。

しかし、「実践報告書」は形式にとらわれて、作成するのにかなりの時間を要します。（臍曲がりの私は形式を外れて書いていますが）

またパソコンで作成し送れ、というのもその技術に乏しい私にとっては他者の力を借りねばならず誠に苦痛です。

むしろこういう報告は口頭の実践報告の場を、或いは事務局が実践者に取材をして、それを映像・音声などでまとめて保管・整理し伝えた方がよいのではないか。

かつて他の学校でNIEに携わった同僚教員が「あの繁雑さはもうこりごり」と漏らしたのと同じく私もそう感じているので、今後実践者が減少するのではということです。

是非一考して下さい。

資料② 表現力をより豊かに

信濃毎日新聞建設標より

2009年(平成21年)5月1日(金曜日)

第三種郵便物認可

私の「楽しみ」の一つは、好きなアーティストさんの舞台やコンサートに行くことです。そこで出会った同じ趣味の友達と、くだらない話をしたり、将来の夢について語り合うことです。長野と東京で離れていても、たまに会った時はすごく楽しいし、お互い刺激し合えて夢の実現のために、いろいろ高め合える仲でもとても大切な存在です。学校の友達とは違ってマニアックな話でも、その友達と会えることが楽しみです。二つ目は、小さな子と接することです。私は小さな子が好きなので、小さな子と遊んだり面倒を見るのが楽しみです。以前、



子供の笑顔に囲まれた生活

ボランティアのような形で保育園でお手伝いをさせて頂いてきましたが、そこでもらったたくさんの方々の笑顔にとても癒やされ、嫌なことも忘れられるくらい楽しかったです。将来は保育士さんになるのが夢なので、こんな笑顔に囲まれた楽しいところで働きたいなあという思いが強くなりました。自分が将来、保育士さんになれるか不安もありますが、楽しみな気持ちです。

上田市 関 香葉絵 (高校生・17)

2009年(平成21年)5月2日(土曜日)

第三種郵便物認可

長野後英高校郷土研究部に入部して3年目、最高学年になりました。部の活動は、松代大本営の案内や地域清掃などいろいろありますが、僕が楽しいのは大本営の案内と「およりなして」という販売活動です。案内活動はこの部活のメインで、松代に在住している地域の方から静岡や広島、そして松代とかかわりが深い沖郷の方々、さらに海外からの方の案内も引き受けています。昨年は台湾の高校生、BUの大使などと交流し、平和活動を日々行っています。これだけたくさんの人たちと交流し、平和の大切さ、戦争の愚かさを、戦



松代大本営から日々平和を発信

争体験の自分たちが学び、伝えていくのはとても素晴らしいことだと思います。「およりなして」は、部のグッズや資料などを見学者に販売する活動です。多くの方に、戦争はしてはいけない、という思いが伝わっていくと思います。今挙げた二つは、内容は地味で大変なこともあります。この毎日の積み重ねが、紛争や戦争が起きない真の平和につながっていきたく思います。

長野市 峯村 拓也 (高校生・17)

長 25 ひろば 2009年(平成21年)5月3日(日曜日)

毎年、ゴールデンウィークには山へタケノコを探りに行きます。朝の8時ごろに家を出て、そのまま竹やぶまで車で3、4時間。着いたら準備をして山に入り、タケノコを探ります。1、2時間、タケノコを探り終えた後は、汗を流すために地元の温泉に行きます。これが毎年の楽しみです。山はとても広く、斜面も急で少し危ない場所ですが、その広範囲の山でタケノコを見つけて採るのは「やった」という感じがします。上の方から下の方まですべての範囲を巡り、よりたくさんタケノコが見つかることさらに



タケノコ自分で採った喜び

うれしくなります。タケノコ以外にも、ワラビやゼンマイなどが採れるので、毎年帰って来ると家の中は山菜だらけになります。こんな感じで毎年ゴールデンウィークを過ごしますが、タケノコ採りでは、自分で採った喜びを感じるのが楽しみです。これからは、タケノコ採りを続けていきたいです。

長野市 西沢 直樹 (高校生・17)

17 ひろば 2009年(平成21年)5月4日(月曜日)

僕は、中学から続けているソフトテニスをしている時の自分が、一番生き生きしていると思います。あまり強くないですが、テニスを楽しんでいます。部活が嫌になって逃げだしていたこともありましたが、その時、ふと思いました。このまま途中で辞めて逃げているのか。気持ちを奮起し、また部活を真剣にやるようになりました。部活は勝つためにやるものでもありますが、自分にとっては、楽しくやればよいと思っています。確かに負けるのは悔しいですが、自分のすべてを出して負けたのなら満足です。インターハイの予選で負けて



ソフトテニスしている時一番生き生き

しまうと、5月下旬には部活が終わります。あと1カ月。その1カ月でどれだけ楽しめるか、悔いのないような部活をしていきたいです。最後の大会で最高のプレーをして、3年間ソフトテニスに打ち込んで良かったな、と思える大会になるように頑張りたい。大人になって、高校3年間の部活、楽しかったなあ振り返れるくらい、残りの部活を楽しみたい。一生の思い出として。

塩科部 塩入 広樹 (高校生・17)

長 17 ひろば 2009年(平成21年)5月5日(火曜日)

私は半年前からアルバイトを始めました。部活をやっていた私は、土日の暇な時間を利用して働き始めました。これが私にとって初めてのアルバイトで、緊張と不安でいっぱいでしたが、職場のみなさんは優しい人ばかりで安心しました。覚えることはたくさんあるし、接客業なのでお客さんとの会話や応対など、大変なこともいろいろありました。これが働くという事なんかなあ、と体験して初めてわかりました。今までは、すべて親に頼ってばかりでしたが、こうして自分で働くことにより、ますますお金の大切さを知りました。



アルバイト大変さどうれしき

接客業は大変なことの方が多いけれど、最後にお客さんごめりかどう「ごちそうさまでした」などと言ってくれるだけで、なんだかうれしい気持ちになります。その言葉ひとつで疲れが取れたり、またもう少し頑張ろうと思えたので、お客さんの一言が本当に力になるのだと感じました。働くことは大変な一方、ささやかなうれしいことがあり、新たな発見があると思えました。

東御市 俣田 朱加 (高校生・18)

長 25 ひろば 2009年(平成21年)5月6日(水曜日)

私は2年の時からバイトを始めました。どうしてバイトをしようと思ったか。自由に使えるお金が欲しかったというのがありますが、家が経済的に少し大変なようだったので、少しでも役に立てればと思ったのです。もうじきバイトを始めて1年です。この1年で私はいろいろなことを学びました。バイトをするまでは、「お金の大切さ」というのを本当に分かっていませんでした。お金がない時は、すぐお母さんにもらい、お金があると無駄遣いしてばかり…。お父さんが朝早くから夜遅くまで仕事をして、大変な思いで稼いだお金を、くだら



お金の大切さバイトで学ぶ

ないものに使っていくかと思うと、今は申し訳ない気持ちでいっぱいです。バイトは私に、お金の大切さを教えてくれました。お金を稼ぐというのには、とても大変なことなんだと思いました。また、仕事の時間に遅れたら周りの人の迷惑になる、といった基本的な常識も学びました。まだまだ社会のことを知らない私には、バイトはとても良い経験になっています。

長野市 岡沢 恭佳 (高校生・17)

長 23 ひろば 2009年(平成21年)5月8日(金曜日)

高校3年生になり、「働く」というテーマがより身近なものになってきました。私は進学の道を選びましたが、家庭やいろいろな事情で、就職を選択せざるを得ない友達もたくさん私の周りにはいます。今、進学よりも就職のほうがとても困難と言われています。百年に一度の不況と言われ、就職口がなかなか見つからない状況です。3年生になり、不況というものと、働くことの難しさをあらためて実感しました。私は、将来保育士になりたいと思っています。進学して2-4年後には私も就職です。決して、人ごとではありません。失



不況でも希望は持ち続けたい

職して路上で生活をしている方も大勢います。職を失っている人々がかんがえているのに、就職口はあるだろうかと不安です。不安に思っているのは私だけではなく、これから就職を迎える大学生や高校生はほとんどでしょう。「働く」というより、「働ける場所がある」大切さをあらためて考えました。このような時代でも、将来に希望を持ち続け、私は頑張っていきたいです。

長野市 松村江里子 (高校生・17)

2009年(平成21年)5月10日(日曜日)

第三種郵便物認可

今、自分は残りの高校生活を楽しみたいという思いがあります。今年が高校最後の年、高校の行事や、友達とたくさん遊んだり、いろいろな思い出をつくりたいです。学校行事では、クラスマッチや文化祭で思いっきり楽しみたいです。クラスマッチではつな引きをクラス全員で一致団結して、よい結果をつかみたいと思います。文化祭では、働くという楽しさをもっと知りたいと思っています。毎年クラスみんなで作る模擬店、今年は沖繩にかなするものなので沖縄っぽくにぎやか



高校最後の年たくさん思い出を作りたい

にしたいです。そして、皆でつくり上げた模擬店が人気すればいいです。友達とおしゃべりも、あと少ししかできないのでしっかりと楽しみたいです。学校以外でも、いっしょに出かけたり、放課後遊んだり、たくさん思い出をつくりたいです。卒業してから、楽しい高校生活だったと思えたいです。

長野市 青木 優佳 (高校生・17)